

萬

葉

集

上

昭和三年四月二十八日印刷
昭和三年五月一日發行

有朋堂文庫
萬葉集上卷
(非賣品)

編輯者

塚本哲三

東京府下大久保町西大久保二百三十六番地

東京市神田區錦町一丁目十九番地

印刷者兼
發行所

三浦捷一

東京市神田區錦町三丁目九番地

印刷所

有朋堂印刷所

東京市神田區錦町一丁目十九番地

發行所

有朋堂書店

緒言

萬葉集二十卷は奈良朝の末に撰ばれたる和歌集にして、今日に傳はれる我歌集中最古のものなり。其採録せる歌は仁徳の朝より淳仁踐祚の翌年即ち天平寶字三年に及び、其間實に四百餘年の久しきに亘れども、歌數の最も多きは持統以後なるを以て、之を奈良朝時代の歌集と稱するの最も當れるを覺ゆ。撰者につきては異說少なからねど、家持が見聞のまゝ記錄し置きたる草案の、整理せられずして後世に傳はれるものなりとなす契沖の説、最も有力なるが如し。眞淵は榮花物語月宴の卷の記事を根據として、卷一、二、十三、十一、十二、十四の六卷のみ眞の萬葉集にして、卷また此順序たりしなるべし、これ即ち橘諸兄の勅を奉じて撰する所、而して他の諸卷は、別の諸歌集の混入せるものなりといへり。或は諸兄が撰したるをば、後に家持が自己の家集と隨見隨録の歌とを増補せるもの、即ち今日の萬葉集にてもあるべきか。撰集の體を得たるは前記の六卷のみにして、他は諸家の雜集たるが如く、殊に卷五は山上憶良の集、四、八、十七、十八の四卷は大伴氏の集にして、

家持の歌最も多きに居る。

萬葉集の歌には、長歌、短歌、旋頭歌（五七七五七七）の三體ありて、概ね、雜、四季、相聞、挽歌、譬喻歌に部類せられたれど、後世の歌集の如く整然たるにはあらず。而して其文字は萬葉假名と稱し、漢字を假りて我國語を寫したるものにして、義訓、借訓、戲書、略書、省畫、異字等の錯綜せるが上に、錯簡誤脫亦少なからずして、訓讀の困難名狀すべからず、用語と語法と亦後世を以て推し難き點多ければ、古來幾多の研究の世に公にせらるゝありたれど、なほ究めて悉さざる所尠しとせず。試に古來の註解書の主要なるものを舉ぐれば、

萬葉集抄（仙覺律師一名仙覺抄）、萬葉代匠記（僧契沖）、萬葉考（加茂真淵）、萬葉集略解（橘千蔭）、萬葉集古義（鹿持

雅澄）

等にして、其他參考に値ひするものは、

詞林采葉（僧由阿）、釋萬葉集（德川光圀）、萬葉緯（今井似閑）、萬葉集童蒙抄（荷田春滿）、萬葉拾穗抄（北村季吟）、玉の小琴（本居宣長）、槻の落葉（荒木田久老）、萬葉集燈（富士谷細杖）、萬葉集檜抓（橘守部）、撰集萬葉

徵(田中道廣)、萬葉集摺解(香川景樹)、萬葉集美夫君志(木村正解)

等殆んど枚舉に暇あらず。就中最も人口に膾炙し、今日なほ萬葉を窺ふものの楷梯として必ず讀むは千陰の「萬葉集略解」にして、古來の註解を大成し研究形式の最も完備せるは、雅澄の「萬葉集古義」なり。

今本書を成すに當りては、本文と目錄とは一に「略解」を擇る事とし、「略解」の訓の傍書なるをば原文と對立せしめ、且「略解」が示す所の訓義に従ひて現用の漢字を配し、原訓讀の假名を傍訓となしたり。而して頭註には専ら「略解」の説と「古義」の説とを參酌し、之を通俗化して理解し易からしめ、異説の甚しきものは一々列記する事とせり。かゝる形式は萬葉集に一新記録を作りたるものにして、自ら僭越の思無きにあらずれども、此形式の通讀上最も便利にして、本文庫の立場として最も適當なるべきを信じたればなり。因に「略解」の例言中、本書に多少の關係を有する條項を摘記する事左の如し。

、目錄は卷十五まで有て、十六以下なき本あり。またすべて目錄有もまち／＼なりしよし、仙覺

が奥書にいへり。契沖はすべて目録なかりしが正本なるべし、初學の爲に詞書のまゝにひろひ出し、或は左註をとり、或は自らの料簡をもて書る所もありといへり。翁はもと目録なかりしを、後人のまじるしにくはへたる物なりといはれき。げにもいたく心得ぬ書ざまなる所どもおほし。されど、是もいと近き世にせしものとも見えれば、其まゝに書て誤れる所は、其よしそこにいへり。本文の端詞に誤たる事の目録のかた正しきもあるは、後とても猶、あまた善本も有しほどに書るならむ。しか目録によりて、本文の誤を知事もあれば、必捨べきものにはあらず。

一、今本卷一、仙覺が書る奥書に、他本漢字歌一首書畢、假名歌更書之、常儀也。然而於今本者、爲_レ糺_二和漢之符合_一、於_二漢字右_一、今付_二假字_一畢と有て、もと日本紀竟宴の歌のさまに書けるものなるを改たりとみゆ。かく文字の右にかな付たるも見やすけれど、此書はかなをもはらすべきを、片かなは見まがふ事もあれば、古きによりて、今のいろはがなもて字の左に書り。されども長歌は、字もて一首書畢て、更にかなもて書ては見合せがたければ、字のくだりのかたへことになを交へて書つ。

一、今古本としるせるは、東万呂翁の得られしにて、いさゝか古き時書つる本也。さて世に常にある活字の本をば、一本とて擧たり。又伊勢の國人がもてる古本に、元暦元年校合せるよし、奥書したるあり。今其本を擧たるをば、傍に元の字をしるせり。又官本と擧たるは、代匠記に官本を校合せし本の有しを得て、それよりとれる也。拾穂本と擧たるは、北村季吟の校合せる古本をいへり。すべてくさぐさの本、よしとおもはるゝをのみ擧て、誤れりと覺ゆるをばとらず。

一、すべて此書廿卷の中に載せたる事は、後人の加へたるにてやうなく思はるゝ事をももらさず書り。其中には、はやくよりかゝりしにやとおぼゆる事もすくなからずして、たわやすく改べきにあらねばなり。此解、千陸とともにあげつらひたすけなせるは、平春海、源道別、源躬弦なり。

本書の校訂校正には文學士中村虎之輔氏と椿強祐氏とを煩はしたる事甚だ多し。茲に特記して其勞を謝す。

大正四年六月

校訂者 塚 本 哲 三

萬葉集上目錄

卷第一……………一

雜歌……………一

泊瀨朝倉宮御宇天皇代……………一

天皇御製歌

高市岡本宮御宇天皇代……………二

天皇登香具山望國之時御製歌○天皇遊

獵內野之時中皇命使間人連老獻并短歌

○幸讚岐國安益郡之時軍王見山作歌并

短歌

明日香川原宮御宇天皇代……………五

額田王歌 未詳

後岡本宮御宇天皇代……………五

額田王歌○幸紀伊溫泉之時額田王作歌

○中皇命往于紀伊溫泉之時御歌三首○

中大兄三山御歌一首并短歌二首

近江國大津宮御宇天皇代本文に國字なし……………八

天皇詔內大臣藤原朝臣競憐春山萬花之

艷秋山千葉之彩時額田王以歌判之歌○

額田王下近江國時作歌并月王和歌○天

皇遊獵蒲生野時額田王作歌 皇太子答

御歌本文に明日宮御宇天皇と有

明日香清御原宮御宇天皇代……………二

十市皇女參赴於伊勢太神宮時見波多橫

山巖吹黃刀自作歌本文に太字なし○麻績王流於

伊勢國伊良虞島之時人哀痛作歌本文に痛を傷に作

名麻績王聞之感傷和歌○天皇御製歌

或本歌○天皇幸吉野宮時御製歌

藤原宮御宇天皇代……………二三

天皇御製歌○過近江荒都時柿本朝臣人

麻呂作歌一首并短歌○高市連古人感傷

近江舊堵作歌 或書高市黑人○幸紀伊

國時川島皇子御作歌本文に或云山上
臣憶良作と有 ○阿

閉皇女越勢能山時御作歌○幸吉野宮之

時柿本朝臣人麻呂作歌二首并短歌二首

○幸伊勢國之時留京柿本朝臣人麻呂作

歌三首 常麻真人麻呂妻作歌 石上大

臣從駕作歌○輕皇子宿于安騎野時柿本

朝臣人麻呂作歌一首并短歌四首○藤原

宮之役民作歌○從明日香宮遷居藤原宮

之後志貴皇子御歌本文に歌上
作字あり ○藤原宮御

井歌一首并短歌○大寶元年辛丑秋九月

太上天皇幸紀伊國時歌二首 或本歌○

二年壬寅太上天皇幸參河國時歌 長忌

寸奧麻呂一首 高市連黑人一首 譽謝

女王作歌 長皇子御歌今本こゝに從駕作歌の
四字有本文にもなけれ

は衍
文也 舍人娘子從駕作歌○三野連名
闕入唐

時春日藏首老作歌○山上臣憶良在大唐

憶本郷作歌○慶雲三年丙午幸難波宮時

歌二首志貴皇子御歌 長皇子御歌○太

上天皇幸難波宮時歌四首 置始東人作

歌今本こゝに作主未詳歌の五字
有本文にもなければ衍文なり 高安大島 身

人部王作歌 清江娘子進長皇子歌○太

上天皇幸吉野宮時高市連黑人作歌○大

行天皇幸難波宮時歌三首○忍坂部乙麻

呂作歌今本こゝに作主未詳歌の五字
有本文にもなければ衍文なり 式部卿

藤原宇合 長皇子御歌○大行天皇幸吉

野宮時歌 或云天皇御製歌 長屋王歌

例によるに寧樂宮御宇天皇
代とこゝに標すべきなり

和銅元年戊申天皇御製歌 御名部皇女

奉和御歌○三年庚戌春二月從藤原宮遷

于寧樂宮時御輿停長屋原迥望古郷御作

歌 一書歌○五年壬子夏四月遣長田王

伊勢齋宮時山邊御井井作歌三首

寧樂宮

此三字誤てこ
こに入たり 三四

長皇子與志貴皇子宴於佐紀宮歌 長皇

于御歌

卷第二……………三五

相聞……………三五

難波高津宮御宇天皇代……………三五

磐姫皇后思天皇御作歌四首 或本歌一

首 古事記歌一首

近江大津宮御宇天皇代……………三七

天皇賜鏡王女御歌一首 鏡王女奉和歌

一首 鏡女王と有べきを誤て
王女とせり下皆同じ ○內大臣藤原卿

娉鏡王女時鏡王女贈內大臣歌一首內大

臣報贈鏡王女歌一首 本文臣の下藤
原卿三字あり ○內大

臣娶采女安見兒時作歌一首 本文臣の下藤
原卿三字あり

○久米禪師娉石川郎女時歌五首○大伴

宿禰娉巨勢郎女時歌一首 巨勢郎女報

贈歌一首

明日香清御原宮御宇天皇代……………四〇

天皇賜藤原夫人御歌一首 藤原夫人奉

和歌一首

藤原宮御宇天皇代……………四二

大津皇子竊下於伊勢神宮還上時大泊皇

女御歌一首 本文還上を上來とし
御の下作の字あり ○大津皇子

贈石川郎女御歌一首 石川郎女奉和歌

一首 今本歌の字
を脱せり ○大津皇子竊婚石川女郎

時津守連通占露其事皇子御作歌一首○

日並皇子尊賜石川女郎歌一首 女郎字曰
大名兒 ○

幸吉野宮時弓削皇子賜額田王歌一首 本
文

賜を贈與
に作る 額田王奉和歌一首○從吉野折取

蘿生松柯遣時額田王奉入歌一首○但馬

皇女在高市皇子宫之時思穗積皇子御作

歌一首○勅穗積皇子遣於近江志賀山寺

時但馬皇女御作歌一首○但馬皇女在高

市皇子宮時竊接穗積皇子之事既形而後
御作歌一首○舍人皇子御歌一首 舍人
媛子奉和歌一首○弓削皇子思紀皇女御
歌四首○三方沙彌娶園臣生羽之女未經
幾時臥病作歌三首○石川女郎贈大伴宿
禰田主歌一首 大伴宿禰田主報贈歌一
首 石川女郎更贈大伴宿禰田主歌一首
○大津皇子宮侍石川女郎贈大伴宿禰宿
奈麻呂歌一首○長皇子與皇弟御歌一首
○柿本朝臣人麻呂從石見國別妻上來時
歌二首并短歌 或本歌一首并短歌○柿
本朝臣人麻呂妻依羅媛子與人麻呂相別
歌一首

挽歌 今本こゝに竹林樂
三字誤て入たり 五三

後岡本宮御宇天皇代 五二
有間皇子自傷結松枝歌二首○長忌寸意

吉麻呂見結松哀咽歌二首 山上臣憶良
追和歌一首○大寶元年辛丑幸紀伊國時
見結松歌一首

近江大津宮御宇天皇代 五四

天皇聖躬不豫之時太后奉御歌一首 一
書歌一首○天皇崩御太后御作歌一首 本
文
崩御の下之時
倭の三字あり○天皇崩時婦人作歌一首 未詳
姓氏
天皇大殯之時歌二首 太后御歌一首
石川夫人歌一首○從山科御陵退散之時
額田王作歌一首

明日香清御原宮御宇天皇代 五七

十市皇女薨時高市皇子尊御作歌三首
天皇崩時太后御作歌一首 一書歌二首
○天皇崩之後八年九月九日奉爲御齋會
之夜夢裏習賜御歌一首

藤原宮御宇天皇代 五九

大津皇子薨後大來皇女從伊勢齋宮還京之時御作歌二首本文に還を上に作る ○移葬大津皇子屍於葛城二上山之時大來皇女哀傷御作歌二首 ○日並皇子尊殯宮之時柿本朝臣人麻呂作歌一首并短歌 或本歌一首 ○皇子尊舍人等慟惕作歌二十三首本文零下宮の字有惕を傷に作る ○柿本朝臣人麻呂獻泊瀨部皇女忍坂部皇子歌一首并短歌 ○明日香皇女木隨殯宮之時柿本朝臣人麻呂作歌一首并短歌 ○高市皇子尊城上殯宮之時柿本朝臣人麻呂作歌一首并短歌 或本歌一首 ○但馬皇女薨後穗積皇子冬日雪落遙望御墓悲傷流涕御作歌一首 ○弓削皇子薨時置始東人作歌一首并短歌 ○柿本朝臣人麻呂妻死之後泣血哀慟作歌二首并短歌 或本歌一首并短歌 ○吉備津采女死後柿本朝臣人麻呂作歌一首并短歌本文

後を時に作 ○讚岐狹岑島視石中死人柿本朝臣人麻呂作歌一首并短歌 ○柿本朝臣人麻呂在石見國臨死之時自傷作歌一首 ○柿本朝臣人麻呂死時妻依羅媛子作歌二首 ○丹比真人名闕擬柿本朝臣人麻呂之意報歌一首 或本歌
 寧樂宮……………八五

和銅四年歲次辛亥河邊宮人姬島松原見孃子之屍悲嘆作歌二首 ○靈龜元年乙卯秋九月志貴親王薨時歌一首并短歌本文年の下歲次二字有時 或本歌二首

卷第三……………八六

雜歌……………八八

天皇御遊雷岳之時柿本朝臣人麻呂作歌一首 ○天皇賜志斐姬御歌一首 志斐姬奉和歌一首 ○長忌寸意吉麻呂應詔歌一

首○長皇子遊獵路池之時柿本朝臣人麻呂作歌一首并短歌 或本反歌一首○弓削皇子遊吉野之時御歌一首弓を誤て引に作春日王奉和歌一首 或本歌一首○長田王被遣筑紫渡水島之時歌二首 石川大夫和歌一首名闕又長田王作歌一首○柿本朝臣人麻呂羈旅歌八首○鴨君足人香具山歌一首并短歌 或本歌一首○柿本朝臣人麻呂獻新田部皇子歌一首并短歌○刑部垂麻呂從近江國上來時作歌一首本文に姓名時の字○柿本朝臣人麻呂從近江國上來至字治河邊作歌一首○長忌寸與麻呂歌一首○柿本朝臣人麻呂歌一首○志貴皇子御歌一首○長屋王故鄉歌一首○阿倍女郎屋部坂歌一首○高市連黑人羈旅歌八首○石川少郎歌一首名曰君子○高市連黑人歌一首 黑人妻答歌一首○春日藏首老

歌一首○高市連黑人歌一首○春日藏首老歌一首○丹比真人笠麻呂往紀伊國超勢能山時作歌一首 春日藏首老即和歌一首○幸志賀之時石上卿作歌一首○穗積朝臣老歌一首○間人宿彌大浦初月歌二首○小田事勢能山歌一首○角麻呂歌四首○田口益人朝臣任上野國司時至駿河國清見埼作歌二首本文には益人大夫とあり○辨基歌一首○大納言大伴卿歌一首 未詳 ○長屋王駐馬寧樂山作歌二首○中納言安倍廣庭卿歌一首○柿本朝臣人麻呂下筑紫國時海路作歌二首○高市連黑人近江舊都歌一首○幸伊勢國之時安貴王作歌一首○博通法師往紀伊國見三穗石室作歌三首○門部王詠東市中木作歌一首本文中木二字を之欄に作る○桜作村主益人從豐前國上京之時作歌一首○式部卿藤原宇合卿被

遣伎造難波堵之時作歌一首○土理宣令
歌一首○波多朝臣少足歌一首○暮春之
月幸芳野離宮之時中納言大伴卿奉勅作
歌一首并短歌本文に未達奏上
歌の五字あり○山部宿彌
赤人望不盡山歌一首并短歌○詠不盡山
歌一首并短歌○山部宿彌赤人至伊豫溫
泉作歌一首并短歌○登神岳山部宿彌赤
人作歌一首并短歌○門部王在難波見漁
父燭光作歌一首○或媛子等以裏乾鰾贈
通觀僧戲請呪願之時通觀作歌一首○太
宰少貳小野老朝臣歌一首○防人司祐大
伴四綱歌二首○帥大伴卿歌五首○沙彌
滿誓詠綿歌一首○山上憶良臣罷宴歌一
首○太宰帥大伴卿讚酒歌十三首○滿誓
沙彌歌一首本文に沙彌
滿誓とあり○若湯座王歌一首
○釋通觀歌一首○日置少老歌一首○生
石村主真人歌一首○上古麻呂歌一首○

山部宿彌赤人歌六首今本一
首と有或本歌一首
○笠朝臣金村鹽津山作歌二首○角鹿津
乘船之時笠朝臣金村作歌一首并短歌○
石上大夫歌一首 和歌一首○安倍廣庭
卿歌一首○出雲守門部王思京師歌一首
○山部宿彌赤人登春日野作歌一首并短
歌○石上乙麻呂朝臣歌一首○湯原王芳
野作歌一首○湯原王宴席歌二首○山部
宿彌赤人詠故大政大臣藤原家之山池歌
一首○大伴坂上郎女祭神歌一首并短歌
○筑紫媛子贈行旅歌一首○登筑波岳丹
比真人國人作歌一首并短歌○山部宿彌
赤人歌一首○仙柘枝歌三首○羈旅歌一
首并短歌○譬喻歌○紀皇女御歌一首○
造筑紫觀世音寺別當沙彌滿誓歌一首○
太宰大監大伴宿彌百代梅歌一首○滿誓
沙彌月歌一首○金明軍歌一首○笠女郎

増大伴宿禰家持歌三首○藤原朝臣八束

梅歌二首○大伴宿禰駿河麻呂梅歌一首

○大伴坂上郎女宴親族之日吟歌一首

大伴宿禰駿河麻呂卽和歌一首○大伴宿

禰家持贈同坂上家之大嬢歌一首○娘子

報佐伯宿禰赤麻呂贈歌一首 佐伯宿禰

赤麻呂更贈歌一首 娘子復報歌一首○

大伴宿禰駿河麻呂娉同坂上家之二嬢歌

一首○大伴宿禰家持贈同坂上家之大嬢

歌一首○大伴宿禰駿河麻呂歌一首○大

伴坂上郎女橘歌一首 和歌一首○市原

王歌一首○大綱公人主宴吟歌一首綱は綱の誤か

○大伴宿禰家持歌一首

挽歌……………三

上宮聖德皇子出遊竹原井之時見龍田山

死人悲傷御作歌一首 小墾田宮御宇天

皇代此九字本文になし○大津皇子被死之時磐余池

陂流涕御作歌一首○河内王葬豐前國鏡

山之時手持女王作歌三首○石田王卒之

時丹生王作歌一首并短歌 同石田王卒

之時山前王哀傷作歌一首 或本反歌二

首○柿本朝臣人麻呂見香具山屍悲慟作

歌一首○田口廣麻呂死之時刑部垂麻呂

作歌一首○土形娘子火葬泊瀬山時柿本

朝臣人麻呂作歌一首○溺死出雲娘子火

葬吉野時柿本朝臣人麻呂作歌二首○過

勝鹿真間娘子墓時山部宿禰赤人作歌一

首并短歌○和銅四年辛亥河邊宮人見姬

島松原美人屍哀慟作歌四首○神龜戊辰

太宰帥大伴卿思戀故人歌三首○神龜六

年己巳左大臣長屋王賜死之後倉橋部女

王作歌一首○悲傷膳部王歌一首○天平

元年己巳攝津國班田史生文部龍麻呂自

經死之時判官大伴宿禰三中作歌一首并

短歌○天平二年庚午冬十二月太宰帥大
伴卿向京上道之時作歌五首○還入故鄉
家即作歌三首○天平三年辛未秋七月大
納言大伴卿薨之時作歌六首○天平七年
乙亥大伴坂上郎女悲嘆尼理願死去作歌
一首并短歌○天平十一年己卯夏六月大
伴宿禰家持悲傷亡妾作歌一首 弟大伴
宿禰書持即和歌一首○又家持見砌上罍
蓼花作歌一首○移朔而後悲嘆秋風家持
作歌一首 又家持作歌一首并短歌○悲
緒未息更作歌五首○天平十六年甲申春
二月安積皇子薨之時內舍人大伴宿禰家
持作歌六首○悲傷死妻高橋朝臣作歌一
首并短歌

卷第四……………二六二

相聞……………二六二

難波天皇妹奉上在山跡皇兄御歌一首○

崗本天皇御製一首并短歌○額田王思近
江天皇作歌一首○鏡王女作歌一首○吹
黃刀自歌二首○田部忌寸櫟子任太宰時
歌四首太宰の下師の字を脱せるか本
文にも無ければ略て書るか○柿本朝
臣人麻呂歌四首○基檀越往伊勢國時留
妻作歌一首基本文に
基に作る○柿本朝臣人麻呂歌
三首○柿本朝臣人麻呂妻歌一首○阿部
女郎歌二首○駿河媛女歌一首○三方沙
彌歌一首○丹比真人笠麻呂下筑紫國時
作歌一首并短歌○幸伊勢國時常麻呂
大夫妻作歌一首○草孃歌一首○志貴皇
子御歌一首○阿倍女郎歌一首 中臣朝
臣東人贈阿倍女郎歌一首 阿倍女郎報
贈歌一首報贈を一本
答に作る○大納言兼大將軍大
伴卿歌一首○石川郎女歌一首○大伴女
郎歌一首○大伴女郎歌一首 後人追同
歌一首同本文の一
本和に作○藤原宇合大夫遷任上